

平成23年度

授業改善推進プラン

練馬区立向山小学校



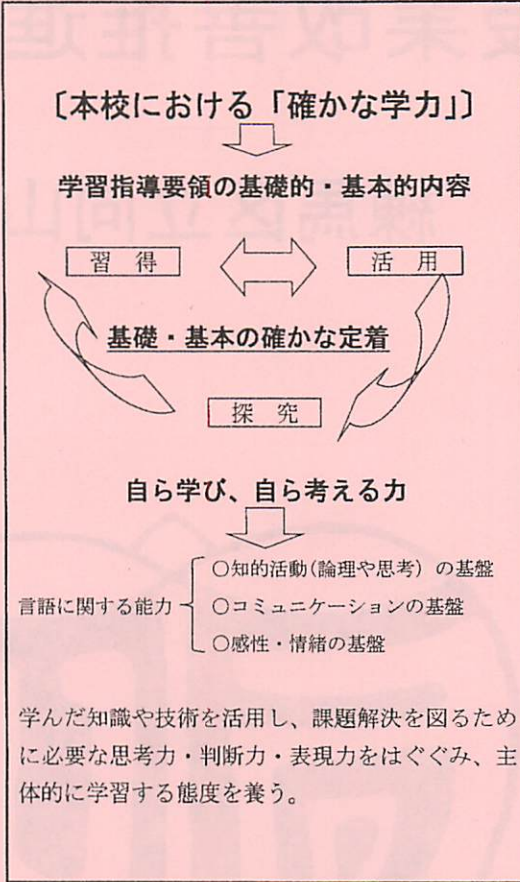
関連法令等
<ul style="list-style-type: none"> ○日本国憲法 ○教育基本法 ○学校教育法 ○学習指導要領 ○都教委・区教委の教育目標

学校教育目標
<ul style="list-style-type: none"> ○やりぬく子 ○思いやりのある子 ◎よく考える子（重点目標）

<ul style="list-style-type: none"> ○学校や地域の実態 ○保護者や地域の期待や願い ○教職員の願い

学校経営計画（学力向上にかかわる視点）
基礎的・基本的な学習内容の確実な定着と活用力を育成する。

各教科の指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ○学級経営を基盤にし確かな学力の育成を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・時間を守る ・学習の準備 ・話をしっかりと聞く ○毎時間の授業を充実させ、「よく分かり、よくできる授業」を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・週ごとの指導計画の活用（PCDA） ・ねらいの明確化。 ○個に応じた指導の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・算数科における習熟の程度に応じた学習 ・個別学習、グループ学習 ・体験的な学習により、五感を通し実感し、理解させる。 ○国語科と他教科等との関連を深め、言語環境を充実させ、コミュニケーション力を高める。



道徳教育の指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ○週1時間の道徳授業の充実を図る。 ○自分の特徴を知り、長所をのぼす。 ○自分で考え、最後までやりぬこうとする態度を育てる。 ○人の気持ちや立場を理解し、だれに対しても公正・公平にふるまおうとする態度を育てる。 ○だれにでも親切にし、温かく接しようとする態度を育てる。 ○生命の尊さを知り、自他ともに生命を尊重する気持ちを育てる。 ○自然のすばらしさを知り、自然環境を大切にすることを育てる。 ○社会の一員としての自覚を持って行動しようとする態度を育てる。

総合的な学習の時間の指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ○児童の実態に合わせ、それぞれの単元のねらい、内容を明確にし、指導を行う。また、各教科・領域と関連付けることによって学習の統合化を目指す。 ○家庭や地域の人々とのかかわりの中から主体的で創造的な学習を展開できるようにする。

特別活動の指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ○望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、生かす能力を育てる。

外国語活動
<ul style="list-style-type: none"> ○5、6年、年間35時間実施 ○コミュニケーション力を高め、進んで交流する児童を育成する。

進路指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の児童が目標をもって生活し、目標達成に努めるとともに、自分のよさを発見し、そのよさを生活に生かせるよう指導を進める。

生活指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ○生活指導朝会、生活指導全体会等を通し、全教職員共通理解のもと、基本的な生活習慣を徹底する。 ○学校環境を整え、安全で安心できる学校生活づくりを推進する。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・算数科における個に応じた指導を推進する。 1～2年（TTによる学習） 3～6年（習熟別クラス編成） ・話す、聞く、伝え合う等コミュニケーション力を高める。 ・地域の教育力を活用する。 ・夏季休業日に学力の補充のための学習教室を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事を精選し授業時数の確保をする。 ・基礎・基本の定着や補充を目指し、週3回朝学習の時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区教育研究校として、コミュニケーション力を高める指導の工夫を目指して組織的に取り組む。 ・授業研究を通し、授業力の向上を図る。 ・専門性の高い外部講師からの指導・助言を生かし、指導技術を高める。 ・OJT「このゆびとまれ」を月に2回実施し授業力向上等課題解決を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の評価規準を作成し、評価規準に基づく評価を行い、指導と評価の一体化を図る。 ・学校行事や授業公開後にアンケート調査を行い改善に活かす。 ・学校評議委員による評価を活用し教育課程の編成に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、ホームページ、保護者会等を活用し学校経営方針を周知する。 ・校内の水田や地域の畑を活用し、地域の農家の方の指導を受けながら自然体験を行う。

学力調査結果等の内容別・観点別の分析

教科名		国 語		学校番号	2 4	学校名	練馬区立向山小学校
内容別結果の分析				観点別結果の分析			
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文は、喜んで音読し登場人物の気持ちを考えながら読むことができる。 ・説明文は、大体の内容を読み取ることができる。 ・ひらがなの習得がまだ不十分な児童がいる。 ・「は」「へ」「を」の使い方の習得がまだ不十分である。 			<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に意欲的に取り組む児童が多い。 ・話す・聞く・・・話すことは意欲的に取り組むが人の話の内容をとらえ最後まで聞くことはまだ十分できていない。 ・書く・・・文字の習得がまだ十分でなく個人差が大きい。 ・読む・・・ほとんどの児童は音読に意欲的に取り組み、内容の大体をとらえることができるが、文字が十分読めずに内容が読み取れない児童がいる。 			
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・読書への意欲があり、集中して読める時間が長くなってきた。 ・場面の様子や登場人物の気持ちを考えたり、説明文でだいたいの内容を読み取ったりすることができる。 ・漢字の定着が未だ不十分な児童がおり、漢字を文章の中で使うのは難しい。 			<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に意欲的に取り組む児童が多い。 ・読むこと…文章から、話の内容を理解することが難しい児童がいる。全体的には大事なことは読み取れている。 ・書くこと…「は」「を」「へ」促音・拗音が正しく使えない児童がいる。書くことは抵抗なく一生懸命に取り組む児童が多いが、書いた文章を読み返して自分で間違いを直したり工夫したりすることはまだ難しい。 ・話す・聞く…人前で話すこと自体に抵抗がある児童がおり、全体の前で発表することよりも、2人組や4～5人のグループでの発表を取り入れている。目的に沿った発表はできている児童が多い。 ・漢字では意味を考えず、音のみで書いてしまう児童がいる。 			
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文、説明文の読み取りには意欲的に取り組む。 ・漢字の習得が不十分な児童が若干名いる。 ・段落を考えて書くことはできるが、メモから内容を膨らませて書くことが不十分。 			<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲・態度・・・学習活動に意欲的に取り組む児童が多い。興味が長続きしない傾向にある。 ・読むこと・・・中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考えながら読む力が弱い。 ・話す・聞く・・・全体の前で発表することに抵抗がある児童もいるが、グループでの話し合いはよく取り組む。 ・書くこと・・・書くことに対する抵抗感をもつ児童がおり、個人差が大きい。 ・言語事項の知識・理解が不十分な児童がいる。 			
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文・物語文ともに、意欲的に学習していた。しかし内容を読み取ることや、話の中の大切な部分を抜き出すこと、指示語の内容の理解は不十分であった。 ・漢字練習に取り組んでいるが、十分に定着していない。既習漢字も文の中で使うことが難しい児童がいる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲・態度…興味関心をもったことには意欲的に取り組める。 ・読むこと…話の中心をとらえたり、指示語の内容を理解したりすることが難しい児童がいる。 ・書くこと…大切なことを伝えるために効果的に書くことや、短くまとめて書くことは難しい。個人差があり、文章を書くことに抵抗を感じている児童がいる。 ・話すこと・聞くこと…朝の会でスピーチを取り入れているため、順序よく話すことはできる。しかし人の話を最後までしっかり聞くことや、聞いたことの中から大切なことを理解するのが難しい児童がいる。 			

5年	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文では段落を意識しながら段落ごとの要点や関連を捉えて読むことができるが、文章全体の要旨を捉えたり、それを文章にまとめたりすることは苦手である。 ・物語文では場面の様子や登場人物の気持ちなどについて、豊かな発想で自分の考えを発表したり、気持ちを込めて音読したりすることができる。 ・人前で話す力は少しずつ高まってきているが、原稿などの準備がないと、自分の思いや考えを積極的に伝えることは難しい児童がいる。 ・文章を書くことに対して消極的な児童がおり、個人差も大きい。 ・漢字の学習は個人差が大きく、定着・活用が不十分な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語事項…漢字の定着が不十分である。 ・関心・意欲・態度…文章を読むこと（読書も含む）への関心や意欲は高いが、漢字の活用や文章表現への関心・意欲は個人差が大きく不十分な児童が見られる。 ・読むこと…短い文章の要旨をつかむ力は高いが、長文になると読み取りの力に差が出る。 ・話す・聞く…人前で事実や自分の経験などは話したり聞いたりできるが、自己の考えを表明したり、それを自分の考えと比べながら聞いたりすることはまだ十分ではない。 ・書くこと…比較的単純な内容や、素朴な感想は得意だが、深まりや広がりは今一歩である。能力の個人差も大きい。 ・言語…語彙数が少ない。漢字定着の個人差が大きい。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文では、要旨をとらえることはできたが、筆者の考えについてより深く自分なりの考えをもつことは不十分であった。 ・ことわざや四字熟語など言葉についての関心は高かったが、より多くの言葉を理解することができなかった。 ・短歌・俳句など教科書の作品が難しいものが多く、関心・意欲を高めることは不十分だった。 ・ガイドブックづくりは意欲的に取り組む子が多く、相手や目的に合わせて自分なりに見やすい工夫をし、まとめることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読むことに関しては、サイドラインなどを活用し、登場人物の気持ちの変化や筆者の伝えたいことを読み取ることができている。 ・話すこと・聞くことに関しては、人前で自分の考えを堂々と話す児童は少ない。態度や適切な声の大きさなど基本的なところはおさえ、自分の考えや伝えたいことを的確に話す力を身に付けさせる。聞く側も相手の意図をつかみながら聞くことができるよう、相互評価などを用い意識付けさせていく。 ・書くことに関しては、短作文などで日頃から書く習慣を身に付けさせ、内容の中心とともに、全体の構成の効果を考えた表現の工夫にも力を入れていく。

学力調査結果等の内容別・観点別の分析

教科名	算 数
-----	-----

学校番号	24	学校名	練馬区立向山小学校
------	----	-----	-----------

	内容別結果の分析	観点別結果の分析
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・たし算、ひき算には興味をもって取り組むが、計算力には個人差がある。ブロックを使って答えを出している児童が半数近く見られる。 ・文章題になると、苦手意識をもつ児童がいる。 ・時計の学習では、ほとんどの児童が何時、何時半を読み取ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算に対する関心や意欲は、全体的に高い。 ・見通しをもって、筋道を立てて考えることはまだ難しい。 ・数量に関する感覚が乏しく、数の大小とブロックの多い・少ないが結び付きにくい児童がいる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・「時こくと時間」は、時刻を正確に読み取ることや、時間の感覚がつかめないうで理解できない児童が半数近く見られた。 ・「たし算ひき算の計算問題」は反復して学習し、定着してきた。しかしまだ繰り上がりや繰り下がりの意味が分からず、ただ規則的に計算をしている児童がいる。 ・「長さ」では目盛りを正確に読み取ることが苦手な児童がいた。cm、mmの単位の意味や、長さの計算で、4割近くの児童につまずきが見られた。 ・文章問題を読み取って立式することが難しい児童が多く見られた。 ・「100より大きな数」も同様に数の連続量を十分理解させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心が高く、知識・理解・表現は概ね満足できる。 ・十進法の概念が不十分なため「大きな数」でのつまずいている児童がいる。 ・計算の手順を図や操作と関連付けるなど考え方が不十分である。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・数と計算は、概ね満足できる。既習内容の定着に時間がかかる児童がいる。数の相対的な大きさについての理解がやや不十分である。 ・簡単な場合について必要な時刻や時間を求めることが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解、表現・処理は概ね満足できる。 ・数学的な考え方が不十分である。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・「わり算」では、かけ算やひき算など今まで学習したことを使って計算するため、できるようになるまで時間がかかることが多かった。 ・分度器の使い方は、定着に時間がかかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解、表現・処理は概ね満足できる。しかし、到達していない児童が数名いる。 ・数学的な考え方や応用問題になると正答を導くことができない児童がいる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・「直方体と立方体の体積」では、既習内容をいかして体積を求めるための様々方法を積極的に考え、正確に答えを出すことができる児童が多かった。 ・「少数のかけ算」は、全体的に意欲的に取り組めるが、児童によって答えを求める時間に大きな差がある。 ・「少数のわり算」では、整数のわり算から復習が必要な児童が数人いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現・処理」「知識・理解」は概ね満足できる。しかし数名の児童は到達していない。 ・「数学的な考え方」や応用問題になると、個人差が大きい。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果によると、「活用」については、全国の平均を上回り、区平均と同程度であるが、「基礎」については、全国と区の平均を下回る。特に「分数」と「百分率」においては、練馬区平均より5%以上下回った。 ・数の相対的な計算の基礎や、数の大きさに対する感覚などが不十分な児童が数名見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数への「関心・意欲・態度」については、全国平均より上回る。「数学的な考え方」「知識・理解」については全国平均と同程度である。「表現・処理」については全国平均よりやや下回る。いずれの観点においても練馬区平均よりもやや下回る。いずれの観点も個人差が大きい。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策 及び 補充的・発展的な学習指導の計画

教科名	国 語		学校番号 24 学校名 練馬区立向山小学校
	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導
1年	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の指導は一字ずつワークシートを使って丁寧に行ってきた。そのため夏休み前には字形が整ってきた。 発表の機会を多くとってきた。話す内容、声の大きさ、聞く姿勢等繰り返し指導する必要がある。 助詞「は・を・へ」については、視覚的な板書などわかりやすい授業に努めた。しかし、まだ十分に定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 片仮名や漢字指導では、筆順など丁寧な指導に努める。 声のものさし・話型・よい聞き方について教室に掲示し、日常的に意識できるようにする。 日常的に助詞について関心をもてるようにする。そのために、短文づくりを取り組んだり、文章の中の助詞に気付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の小テスト等用い、筆順・字形の不十分な部分を確認し、個別指導を行う。 朝の会などにスピーチの時間を設ける。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 「は・を・へ」促音・拗音が正しく使えない児童がいる。長い文章を書くことはできるが、順序よく、句読点を適切に使いながら書くことは難しい。 スピーチなど人前で話す機会を多くした。しかし、未だ抵抗がある児童と堂々と話すことのできる児童と差ができています。 新出漢字に関心をもって取り組めるが、普段から使うよう指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 一言日記など書く時間を毎日定期的に設け、作文指導の時間を確保していく。また、試写などにより正しい文章の形を身に付けさせる。 全体の前で話す前に、2人組での言葉のキャッチボールや、3～4人グループでの話し合い等の機会を多く設け、対話することを習慣にする。 漢字を覚えるだけでなく、成り立ちを示したり意味を考えたりすることで、習得と書くことへの習慣化を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝自習や宿題プリントを利用して漢字の定着を図る。小テストをくり返し行う。日記や感想等を書かせる時、漢字を何字使ったか意識させる。 絵日記や感想を書く様々な活動を取り入れる。自分で書いたものを読み返し、間違いを直したり、工夫したりする時間を確保する。 カタカナの習得が不十分な児童には、日常生活での指導を取り入れる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字が多く、繰り返しにより、定着させる工夫が不十分であった。 スピーチなど話す活動は興味をもって取り組むが、人の話を最後まで聞くことができないことがある。 物語文に比べ、説明文に対しての興味をもたせること、段落ごとの内容の読み取りが不十分だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習の仕方を身に付けた上で、調べ学習を取り入れたたりたコーナーを設けるなど、児童自らが進んで活動できるようにする。繰り返しの練習に取り組み、身につけさせるようにする。 友達のスピーチを最後まで聞き、それに対する感想や質問を述べる活動を取り入れる。 興味・関心に合うような説明的文章を意図的に紹介したり、読み聞かせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストと大テストを繰り返し行う。 日常生活の中でも聞くことの重要性を認識できるようなスピーチする場を多く設定する。 児童の興味・関心の幅を広げられるよう、図書における読み聞かせ等を取り入れる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字が定着していない児童がいる。 自分の考えをもち話し合いをすることが苦手な児童がいる。 発表することが苦手な児童がいる。 文章の読み取りが不十分である。また、自分で文 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書く機会を多く作る。その際に、内容の指導だけではなく、既習漢字を使用することも指導する。 話し合いの方法をモデル提示することにより、理解させる。 スピーチの仕方を繰り返し指導し自信をもた 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に、既習漢字のテストを取り入れ、繰り返し学習できるようにする。 話し合いになれるように、国語以外の教科でも話し合いの機会を多くもつ。 朝の会でスピーチの時間を設ける。

	<p>章を書くときも、文章の組み立てや表現力の不十分な児童がいる。</p>	<p>せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的に応じた書き方ができるように、事前指導をしっかりと行う。文章を書くときには、めあてを明確に示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書いたら、互いに読み合って感想を交流したり、手紙を書いて相手に届けたりすることで目的意識をもたせる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文では段落を意識しながら段落ごとの要点や関連を捉えて読むことができるが、文章全体の要旨を理解したり、それを文章にまとめたりすることはまだ十分にはできてはいない。 ・漢字の学習は個人差が大きく、定着・活用が不十分な児童がいる。 ・話し合いに、自分の意見がないまま参加をしている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章のポイントとなる文や語句に印をつけさせたり、文章の構造を図式化させたりする学習を工夫して行う。 漢字学習の習慣化と個別への声かけを励行する。 ・話し合いの方法をモデル提示することで、善意が参加できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書への意欲付けを様々な場面でを行う。 ・「朝のスピーチ」など話す・聞く学習を習慣化する。 ・様々な言葉の意味や語源などを、機会を捉えて指導する。 ・漢字学習の個別指導や、家庭への協力を依頼する。 ・国語以外の教科でも話し合い活動を取り入れていく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の登場人物の気持ちや説明文の要旨の読み取りの際に、サイドラインを活用して大事な点を落とさずに読めるようになった。 ・教材の意味を最大限に引き出し、意欲・関心をもたせることが課題。 ・話し合いの仕方が、身に付いていない児童がおり、班の意見をまとめられないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み取ることが苦手な児童に、それを補助する視覚的な資料の提示を取り入れる。 ・詩・短歌・俳句など、児童の実態や興味にあった作品を用意して導入し、読む楽しさを感じるなど学習活動を工夫する。 ・話し合いの方法をモデル提示する。 ・司会の仕方や話型を明確に示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じ、自分の考えを全体の構成の効果を考えながら書けるようになるために、日ごろから短作文などで習慣付ける。 ・話す・聞くことに関しては、話し方・聞き方のルールを示し、相互評価をすることによって意識を高める。 ・国語以外の教科でも話し合い活動を取り入れていく。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策 及び 補充的・発展的な学習指導の計画

教科名	社 会
-----	-----

学校番号	24	学校名	練馬区立向山小学校
------	----	-----	-----------

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導
3年	<p>授業への興味・関心は高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図の見方を定着させるのに時間がかかった。 ・自分たちの地域についての理解はよいが、練馬区という大きなまとまりになると、それらを実感できない児童がいる。 	<p>実際に地図を見ながら学区内を歩く活動を取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科見学など、体験的な活動を随時取り入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室に方位や地図を掲示し、児童の関心を高める。 ・視聴覚教材を使用する。図書やパンフレット等を教室に置く。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科見学や清掃局の方との体験学習は興味・関心をもって取り組めた。しかし学んだことをまとめたり、自分の考えたことやその根拠を分かりやすく表現したりすることは難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真等具体的な資料や記入しながら学べるワークシートを用意し、児童が興味をもち、意欲的に取り組めるようにする。 ・1時間の学習の中で、ねらいを明確にし、自分の考えやまとめをしっかりと記入するよう、日々のノート指導を充実することで、まとめる力を付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科見学を意図的・計画的に指導計画の中に設定する。特に、視聴覚資料だけではわからないことについて見学や体験ができるようにする。 ・学習したことをただ知識として得るだけでなく、自分の生活の中に取り入れて生かすことができるように、総合的な学習の時間を使って発展させていく。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・稲、水産物といった食生活にかかわる内容だったので、興味・関心を持続して、授業に取り組んでいた。しかし、グラフの読み取りになると、正確さに欠ける児童がいた。 ・自分の考えを発表する児童が限られている。 ・興味・関心の差が知識量の差につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークなどで、グラフに触れる機会を多く作り、何を表すグラフかを考えさせたり、比較したりできるようにする。 ・資料相互の関係性を見つける活動を多く取り入れ、考える力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習を適宜取り入れ、一人だけではなくみんなで課題について話し合える。 ・詳しく調べたいと思ったことに関しては図書館やコンピュータなどを活用して資料の収集・活用・整理などをする時間を確保する。 ・グラフの読み取り方など指導の必要な児童に対しては個別指導を行う。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史に対し、興味・関心のある児童と無い児童の差が大きい。 ・知識の詰め込み型の授業が多く、教師主導型の授業になりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的資料の活用を増やし、発問を工夫して、関心・意欲を喚起する。 ・知識だけでなく、先人の業績や優れた文化遺産を大切に思えるような教材や資料を用意し、歴史の尊さを理解できるようにする。 ・図や表、年表などを調べる時間を増やし、自分の必要な情報を読み取れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習を適宜取り入れ、みんなで課題について話し合うことで関心・意欲を広める。 ・図書館やコンピュータなどを活用して資料の収集・活用・取捨選択などをする時間を確保する。 ・視覚的資料を使う際に電子黒板などを効果的に用いるなどの工夫を行うことで、児童の興味を高め、資料への理解を深めていく。

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的学習指導
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・数を明確にとらえたり、おはじきやブロックにおきかえて、数を比べることはできた。合成的・分解的なとらえかたはまだできない児童がいる。 ・10までの加減法では習熟に重点をおいたが、まだ計算が確実にできない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を活用し、10の合成分解について算数的活動を通し繰り返し指導する。 ・計算カードやプリント使って、10までの加減法を確実にできるようにする。 ・量の指導にあたっては、児童の体験を大切にしながら具体的な活動を取り入れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導の時間を設け、確実に数の構成を理解できるようにする。 ・個人差に応じてプリント・練習問題を用意する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・たし算ひき算の計算問題は朝学習等で反復して学習してきたので定着してきたが、課題にかかる時間に大きな差がある。 ・長さの学習では目盛りを正確に読み取ることが苦手な児童がいた。大きな数も同様に数の連続量を理解させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリルやプリントを使って早く終わった子への課題を用意すると共に、課題が難しい子にはヒントカードや操作できる具体物を用意する。 ・フラッシュカードや計算カードを活用して、素早く計算できるようにする。 ・少人数やTTなどの体制を効果的に使う。座席の配置を工夫し、つまづきやすい児童を指導しやすい環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・測定や図形の時間では一人一人の学習の時間を確保し、つまづきについて早期に指導する。 ・具体物や数直線を用意して、関心・意欲を喚起する。 ・30cmのものさしや時計、数カードを教室に常備し、操作できる環境にする。 ・家庭学習などで継続的に反復学習を行う。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ算はほぼ正確にできるようになったが、意味を考え1あたり量×いくつ分をさらに意識させていく。 ・何倍かを求める計算や問題作りを苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・式との意味合いの言葉、アレイ図を並べ直観的に理解できるようにする。 ・関係をテープ図や数直線にし、視覚的、直感的にとらえられるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差に応じた準備(ドリル・プリントなど)をする。 ・習熟度により補充問題、発展問題を用意する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・わり算の計算では、習熟に大きな差がある。 ・図形の分野では、基本的なことは理解できているが、応用問題でのつまづきが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業だけでなく、朝学習や家庭学習などで繰り返し練習をする。 ・様々な問題形式に取り組みせ、柔軟に深く考えることができるようなワークシートを準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わり算の意味や考え方を考えさせる。 ・習熟度により補充問題、発展問題を用意する。 ・思考力を高めていく指導を取り入れる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項が十分に活用できていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元に入る前にレディネス問題などで、既習習得状況を把握してから、指導計画を組む。 ・机間指導を行い、習熟の程度によって、課題の与え方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習を活用して基礎・基本の定着を図る。 ・プレテストなどを活用し、さらなる定着を図る。 ・習熟度により補充問題、発展問題を用意する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を喚起する導入方法の工夫が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数的な活動を多く取り入れ、児童が体感しながら理解できる活動を多く取り入れる。 ・一斉指導の際にも必要に応じて小集団での指導を行い、習熟度別に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度により発展問題を用意する。 ・習熟の程度に応じたクラス編成での授業の中で、コースの変更希望など柔軟に行い、より個に応じた指導ができるようにする。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策 及び 補充的・発展的な学習指導の計画

教科名		理 科		学校番号	24	学校名	練馬区立向山小学校
	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導				
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・観察することには興味・関心を示すが、成長の様子に詳しく気付けない児童がいる。 ・実験に対しては興味をもって取り組むが結果をまとめたり、知識の定着に不十分な面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材を用いて、児童の観察活動がより具体的に理解できるよう工夫していく。 ・ワークシートを工夫やノートの記入の仕方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭でも植物を育てるなど協力を得る。 ・関連図書などを置き、学習環境を整える。 				
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・身近に見られる生き物の成長を季節ごとに関連付けながら調べたり、電気の働きを実験したり興味をもって取り組んだ。調べ方・確かめ方など具体的な解決の方法を考えることが、不十分だった。 ・実験は意欲的に行い、時間ごとにまとめをしたが、知識の定着が不十分な面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象と事象を関連付けながら調べていけるようにワークシート・短冊・板書などを工夫し、課題解決の方法の充実を図る。 ・知識の定着を図るようなワークシートを何度か繰り返し行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みを利用して実生活の中で実践できるような、学習課題を提示する。 				
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の関心・意欲を高めるために、実験・観察を多く取り入れ進めたが、自ら積極的に学習しようとする児童と、あまり関心・意欲を示さない児童との差が見られ、理解にも差が現れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察の場面を個別化して一人一人活動ができるように工夫する。 ・めあてを明確に示し、解決の見通しや予想ももたせて学習する。 ・成長の予想をさせるなど、見通しをもって参加できる授業の形態を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的な実験や学習の場面と設定する。 ・視聴覚教材やコンピュータを効果的に活用する。 				
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察の方法を教師から提示することが多い。 ・実験の準備や片付け、安全指導などの時間が多くなってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な活動を通して、児童のアイデアを生かして授業を展開していく。 ・実験方法の指導については、安全のポイントを明確に示し、徹底していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的な観察・実験・調査などに対応できるように教材教具を準備する。 ・理解が定着するよう、復習プリント等をくり返し行う。 				

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策 及び 補充的・発展的な学習指導の計画

教科名	生 活
-----	-----

学校番号	24	学校名	練馬区立向山小学校
------	----	-----	-----------

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・発見カードの絵や文章の技能面での個人差が大きい。 ・生き物や学校のまわりの様子について十分指導することができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の移り変わりについて、公園や学校の周りの地域を回るなど、気づきを大切にしている。 ・自分に責任をもち、継続して動植物の世話ができる環境を整える。 ・発見カードにかく内容について、観点を示すなどして具体的な書き方を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物を大切に、適切にかつ積極的にかかわることができるようにする。 ・家族や家庭での生活に関心をもち、家族と過ごす楽しさやよさに気付く。 ・家族の一員としての自分を再確認し、家族のためにできることを考え、行動できるようにする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内では、スタンプを押すことに意識が向いてしまい、各スタンプ場所で行列ができ、騒がしくなってしまう、場の設定を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内では、ねらいを明確にするなど、事前指導を徹底する。 ・地域探検では保護者への協力を求めるなど、児童が安全かつ意欲的に取り組めるよう、工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニトマトやサツマイモの観察では、特にどこに注目したらよいか、視点を明らかにする。 ・見るだけでなく、五感を働かせて観察できるようにする。(におい 手触り 音 数 大きさ等長さを測ったり、何かと比べたり発展的な観察もできるようにする)

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策 及び 補充的・発展的な学習指導の計画

教科名	音 楽
-----	-----

学校番号	24	学校名	練馬区立向山小学校
------	----	-----	-----------

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導
1年	<ul style="list-style-type: none"> 楽しんで、大きな声で歌うことができている。 鍵盤ハーモニカについては、意欲をもって取り組んでいるが習熟に差がある。タンギングや指使いについて個別に指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 音に合わせて動く身体的表現活動を取り入れる。 タンギングについては、継続的に指導していく。個人練習の時間を十分にとる。個別に指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会や帰りの会などで歌う機会をつくる。 学芸会の演技の中で歌を取り入れる。 学年で歌を歌ったり、合奏をしたりする機会をつくる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカでは習熟に差がある。タンギングや指くぐりなど指導が不十分だった。 好きな歌は大きな声で元気よく歌うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指の使い方やタンギングなど個別指導を増やすと共に互いに教え合う学習を増やす。 体を使ったリズム遊びやふし遊びをさらに取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに歌う楽しさを味わわせるため、国語の学習と結び付けて、音楽物語を教材に取り入れ、発表の機会を設定する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱力はついてきている。 音符の長さ等の理解が不十分なため、リズムの習得に時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いに学び合う活動を取り入れ、友達と聴き合うことで、よい耳を育てる。 リズム遊びを通してリズムの習得につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> リズム打ちをするときにリズム唱することで身体全体でリズムを習得する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱力の差はなくなってきている。 リコーダーや鍵盤ハーモニカのように地道な努力を要するものについて差がつくようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人練習の時間を充分にとる。 階名唱や部分練習をして、苦手な児童もできた実感がもてるよう、小さなステップで練習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 少し大きな合奏曲を取り入れることで、演奏する楽しさを味わう機会をつくる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱力が安定してきている。 曲想や音楽の要素を感じ取り、それを生かした表現の工夫までに至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ学びを取り入れることで、互いにアイディアを出し合い、表現の工夫を認められる環境を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 共通事項を「表現」「鑑賞」のすべての活動の中で指導する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 個々の歌唱力はついてきているが、気持ちが解放できず、合唱の仕上がり不十分のときがある。 器楽表現の技術の個人差が大きいので個別指導の必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> グループによる学び合い活動など、自主的に活動し、気持ちを開放しやすい形態の学習を増やす。 どの子も表現活動を楽しめるように、演奏技術に応じて楽しめるパートをつくるなど、工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間などを使って個人指導をする。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策 及び 補充的・発展的な学習指導の計画

教科名	図 工		学校番号 24 学校名 練馬区立向山小学校
	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組む児童が多いが、取りかかるまでに時間がかかる児童がいる。表現への意欲を高めたり自信をもたせたりする必要がある。 ・作品が小さくなる児童がいる。大きく表現できるように支援する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入を工夫したり見本となる作品をいくつか用意したりして、意欲的に取り組めるようにする。 ・自分や友達の作品のよさを見付けたり、紹介したりする時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の掲示板を使ってミニ作品展を行い、互いの作品を鑑賞し合う態度を養っていく。 ・グループで造形遊びを行うなどして楽しんで作品作りに取り組めるようにする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物の描画は難なく取り組む児童が多いが、「夢の世界」など抽象的な課題だと躊躇してしまう児童がいる。 ・丁寧に仕上げられるよう支援を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手本となる作品をクラス全体に紹介して意欲を喚起させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品発表会を行ったり、展示を工夫したりして、互いの作品を鑑賞し合う態度を養う。 ・導入時に、テーマについて連想するものを考えさせて発想する力を育てる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲はあるが、物の位置関係等の理解が不十分なことから、必要以上に時間がかかってしまうことや不自然な身体描写等がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形遊びを十分させ、楽しく自然に位置関係の感覚を付けさせるようにする。 ・色々なモデルでクッキーをられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの作品を見合い、良いところを探したり、それを発表しあったりして、個々の気付きや意欲をもたせるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・技能に差があり、個別指導が多く、待つ時間が長くなってしまった。 ・材料を生かしきれず、作品全体を小さく表現してしまう傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みやすい教材を活用し経験を積ませる。 ・大きさ・材料等の条件を具体的に提示する。 ・堂々と大きい表現を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての作品を並べて鑑賞する時間を設け、作品の大きさの大切さを認識させるようにする ・自信をもたせ、伸び伸びと表現するよう励ます。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲はあるが、技能は不十分である。 ・準備片付けの時間を短縮する必要がある。 ・表現していく中で自分で選択・判断が難しく感じる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り扱いやすい素材・用具から、安全を確認した上で作業を行う。 ・板書等で手順を分かりやすく示す。タイマーなどを活用し時間を意識付ける。 ・個人での造形遊びし。自分で発想・選択・判断・表現等する経験をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みやすい素材を体験させる。 ・グループでの造形遊びで、自他の考えの交流場面を設定する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲はあるが、技能は不十分である。 ・準備片付けの時間を短縮する必要がある。 ・導入やまとめの発表で作品のことを十分に発表できず、作品を見せたがらない傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り扱いやすい素材・用具から、安全を確認した上で作業をさせるようにする。 ・板書等で手順を分かりやすく示す。タイマーなどを活用し時間を意識付ける。 ・鑑賞をカードに記入して掲示、発表するなどの機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・素材を体験できるようにする。 ・鑑賞の時間で、人による感じ方やその表し方の違いは、自然で尊重すべきであるということを意識させるようにする。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策 及び 補充的・発展的な学習指導の計画

教科名	家 庭	学校番号	24	学校名	練馬区立向山小学校
-----	-----	------	----	-----	-----------

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活での経験が乏しい児童がおり、真新しさで、興味関心は高いが、知識・技能面でのきめ細かな指導が必要となる。 ・学んだことを家庭生活に生かす段階への意識を育てることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本となる知識・生活技能の指導において、掲示物の活用、教材の精選、例示方法の工夫、指導体制の工夫等をはかる。 ・内容にあわせて、学習形態を工夫し学習しやすい教室環境を整備する。 ・創意工夫する楽しさも味わえ、家庭生活へもつながるよう教材展開を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業等に時間のかかる児童については、見通しを持ち、児童ができるだけ負担感なくやり遂げられるよう、補充指導の時間を設定する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・1学級の人数が多いので、特に実習を行う場合の、場所や機会の設定、指導の徹底への配慮が必要となる。 ・技能面はもとより、関心意欲・態度面での大きな個人差にも対応する指導が求められる。 ・学んだことを家庭生活に生かす段階への意識を育てることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容にあわせて、学習形態を工夫し、学習しやすい教室環境を整備する。 ・安全面や学習効果面を考慮して、必要な場合には担任との TT や保護者学習ボランティアの協力を得る指導体制をとる。 ・創意工夫する楽しさも味わえ、家庭生活へもつながるよう教材展開を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業等に時間のかかる児童については、見通しを持ち、児童ができるだけ負担感なくやり遂げられるよう、補充指導の時間を設定する。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策 及び 補充的・発展的な学習指導の計画

教科名	体 育	学校番号	24	学校名	練馬区立向山小学校
-----	-----	------	----	-----	-----------

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動経験の差があり、技能差が大きい。 ・集団行動では並び方を覚えるのに時間がかかった。素早く集合・整列ができるよう繰り返し指導することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に応じてグループ別に活動できるように、場の設定を工夫する。 ・動きを発表したり紹介したりする場を設け、よりよい動きに気付かせる。 ・学習後に振り返りの時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを活用し、個人の課題を明確にして、活動に取り組めるようにする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なことに自分から進んで取り組めない児童がいる。 ・集合・整列に時間がかかったので、素早く行動できるようにし、運動量を確保する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールや規律の大切さに気付かせていく。 ・よりよい動きや気付きを発表したり紹介したりして意欲的に活動できるようにする。 ・苦手なことにも取り組めるように、ゲーム性を取り入れたり、スモールステップでできる喜びを味わわせたりする。 ・ねらいを明確にし、自分で課題に取り組む意欲づけにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合整列など集団で動くときのルールを学校生活全般で心がける。 ・学習カードや学習ノートを活用し、児童の思考・判断面の良さを積極的に見ていく。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な運動に取り組めない児童や、勝敗にこだわる児童がいる。 ・リレーでは、チームごとに作戦を考えさせたが、考えたことが実際の動きに結び付かなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な運動にも取り組めるように、スモールステップでできる喜びを味わわせる ・めあてを明示し、より良い動きを見せるなど思考・判断に生かすことができる機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームでの活動を楽しむためには、互いに理解することが大切であることを日常生活の場でも経験する。 ・様々な運動遊びを取り入れる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・リレー運動や表現に意欲的に取り組んでいたが、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を喚起させるような導入、授業展開を工夫する。 ・基本的な技能のポイントをしっかりとおさえて指導をする。 ・自分にあつためあてをもつようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで活動する場合、それぞれの役割を考えるようにする。 ・身に付けた技能を、ゲームで活かすことができるようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール運動や陸上運動に比べ、器械運動への関心・意欲が低いので、個に応じた目標設定や段階的な指導をしていく必要がある。 ・勝敗だけにこだわるのではなく、仲間と協力して体を動かす楽しさを大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能のポイントと、個人の目標を明確にもち意識しながら学習する。 ・チーム練習や作戦会議を通して、全員でゲームに取り組む意識を大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能の低い児童への個別指導や児童相互の教え合いを重視する ・技能の高い児童には、安全面に充分配慮しながら高次の課題を必要に応じて与えていく。

6年	<ul style="list-style-type: none"> ・達成型の運動については、個々の技能差、体力差が大きいため、より一人一人の課題に応じた指導をしていく必要がある。 ・ペアやトリオ、チームなどの活動で、仲間と協力して楽しく運動に取り組む態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方や自分の力を知る導入の時間を充実する。また、自分の力に合っためあてをもち学習を進めるための資料やカードも充実する。 ・互いに見合ったり、励まし合ったりするような場面を意図的につくる。そのときに、技能のポイントなどの観点を明確に示し、互いに見合い声をかけ合うことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能の習熟度別に小集団を作り、1単位時間の中で主に習熟度に応じて指導する。
----	--	--	--

各教科名における一単位時間の授業の配慮点

指導技術		観点別の授業改善の視点				
教師の指導 (授業規律・発問・個別指導・ノート指導等)		各観点を向上させるための手だて				
		関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能
導入	<p>規律：チャイム着席し、学習道具の確認をする。</p> <p>板書：単元(教材名)を右隅に書く。</p> <p>板書ノート：本時の課題を黄色で囲むように書き、課題を明示し本文を読む。</p> <p>発問：物語文→心に残ったことは何ですか？ 説明文→分かったことは何ですか？ 等の発問をし、主題に対する関心を高めていく。</p> <p>板書：着眼点を表などにまとめ、活動の動機付けや方向を明確にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真やビデオ、CDを活用して目的意識やイメージ作りなどを明確にする。 ・共通体験を設定し、尋ね合いや話し合いにより、意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞くときには、姿勢を正す・最後までしっかり聞く事を確認する。 ・尋ね合いをする前に、教師と児童で活動のモデルを示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作文の材料をノートやカードに集めておき作文を書くときに活用させる。 ・学年に応じて構成カードや作文用紙を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の初発の感想を基にして、課題作りに生かす。 ・読むときに文節や段落を意識して読めるよう指導を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前単元に学習した内容や既習経験を生かす。
展開	<p>発問：「いつ・どこで・誰が・何をした話ですか」と事実を確認する。</p> <p>板書ノート：児童の発言を板書する。整理する段階で、重要な語句に印をつけたり、色分けしたり消したりしながら要約したり分類したりして思考を整える。</p> <p>発問：「この場面の〇〇さんはどんな気持ちだったでしょう」など思考を拡大したり深化したりする。</p> <p>個別指導：全体と個々を見ながら取りかかりの遅れている児童に分かりやすく指示する。</p> <p>板書：吹き出しの活用、色違いの工夫をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が関心を持ち、いろいろな意見が出せるような課題を設定する。 ・自分の意見が認められる喜びが感じられるような活動を取り入れ、意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチや対話・グループでの話し合いなど話す場面を多く設定し、発表の機会を増やす。 ・文末まで話すことや正しい話し方で話す習慣を継続的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作文や日記、絵カードを使ったお話し作りなど書く場面を多く設定し、きめ細かな指導をする。 ・全文視写させたり作文の決まりをくり返し指導したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードを理解させ、事実と考えを区別して読み取らせる。 ・サイドラインによる色分けなど、文の中で大切な言葉を見付け意識させ、動作化を取り入れ心情や内容を深く読み取る 	<ul style="list-style-type: none"> ・間違いやすい漢字や筆順の確認、漢字辞典や国語辞典の日常的な活用を継続的に行い、漢字を正しく読み書きできる力を養う。 ・例文を視写する活動を設定し、主語述語を正しく理解させる。
まとめ	<p>発問：「自分のことと比べて読んでどんなことを感じましたか」と共通化、一般化したり、登場人物になったの気持ちを書かせたりして学習を深める。</p> <p>板書：学習内容をまとめる。重要事項は四角で囲む。</p> <p>個別指導：全体を見渡し、学習達成度、成就感、次時への意欲の状況を把握する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価・相互評価を行う。 ・具体的な評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し方、聞き方のよかった点や課題について適宜指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の書いた文章を丁寧に点検し適宜指導する。 ・例文やヒントカード、項目ごとに自己評価・相互評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想発表や音読発表会の時間を設け、発言できなかった児童の考えも授業に取り入れまとめの学習に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フラッシュカードの活用やクイズ形式の工夫をして、既習内容の定着を図る。

各教科名における一単位時間の授業の配慮点

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・発問・個別指導・ノート指導等)		各観点を向上させるための手だて			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
導入	<p>〔規律〕チャイム着席をし、学習道具の確認をする。</p> <p>〔板書〕単元(教材名)を書く。</p> <p>〔発問〕本時のめあてにつながる発問を構成する。</p> <p>〔板書・ノート〕本時のめあてを線で囲むように書き、課題と本時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の身近な事象から導入し、主体的に学べるようにする。 ・視聴覚教材を使って、イメージをもちやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の方法を既習経験の中から見付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のための資料を取捨選択できるようにする。 ・資料メニューと用意した資料メニューの中から自分で資料を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した内容を確認する。
展開	<p>〔発問〕自分の体験を基に、資料から分かることや、自分の考えを出せるようにする。</p> <p>〔板書・ノート〕個々に考える時間を設定し、自分の考えをまとめさせる。さらに友達の発表を聞いて分かったことや、自分の考えと比べて違ったことをノートにまとめる。</p> <p>〔個別指導〕全体と個々を見ながら、取りかかりの遅れている児童に分かりやすく支援する。</p> <p>〔グループ指導〕グループで協力したり分担したりして、調べたことや考えたことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を活用したりインタビューしたりして、調べていく中で解決できるような課題を設定する。 ・作品にしてまとめるときは、見通しがもてるように見本を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの読み取り方を確認したり、資料から分かることを全体で確認したりして、活用方法を示す。 ・資料の拡大図等を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を活用して、学習内容を分かりやすくまとめる。 ・資料を読み取って分かったことをまとめる方法を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の特別な語句を確認したり、教科書や資料を正しく読み取るようにする。 ・都道府県名や年号など繰り返し学習してしっかりと定着させたい事柄は、継続して取り組む。
まとめ	<p>〔発問〕本時の学習で、初めて知ったことや、考えが深まったことを発表し、まとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の最初の考えと比べてどう変わったのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことや考えたことを発表する時間を取り、友達の意見を聞いて、自分が気付かなかった考えに気付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えを参考にして自分の言葉で自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真やビデオを提示し、本時のねらいを確認する。

各教科名における一単位時間の授業の配慮点

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・発問・個別指導・ノート指導等)		各観点を向上させるための手だて			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
導入	<p>【規律】チャイム着席し、学習道具の確認をする。</p> <p>【板書】単元名、日付を左上に書く。問題文を提示する。</p> <p>【板書】図形等の単元では視覚化したり、計算等の単元では絵図やカード、おはじきなどを活用したりして、児童の算数的操作活動を促す。</p> <p>【発問】児童と学習の対象、問題の所在、解決の見通し・必要性などについて話し合う。</p> <p>【板書】問題の概要や条件を板書し、筋道を立てて考えられるようにする。</p> <p>【発問】「この問題をどう解いたらよいか考えましょう」などと発問し、自力解決の方法を考える。</p> <p>【板書・ノート】本時の課題を書き、児童に課題をつかませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決的な学習を積極的に取り入れ、考えの多様性や発展することの良さを感じさせ、主体的に学ぶ力を育てる。 児童の身近な事象から導入し、具体物や半具体物を操作する活動を重視する。 	<ul style="list-style-type: none"> 考える力を伸ばすため、具体的操作的活動を増やしたり、既習事項を掲示したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の復習を設定し、既習事項の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に学習した内容を確認する。 既習事項の想起を図る。
展開	<p>【発問】既習事項を生かして、問題解決するよう発問する。</p> <p>【机間指導】全体と個々を見ながら、取りかかりの遅れている児童に分かりやすく助言する。順調に進んでいる児童には励まし、賞賛の言葉かけをし、継続を促す。各自の課題解決の状況を把握する。</p> <p>【机間指導】問題解決場面では、作業・活動やノートの記述などにより、どのようなことにつまずきや問題を感じているのか評価し、指導する。</p> <p>【板書】解決可能な児童に自分の考えを、画用紙に書かせ掲示したり、板書したりする。</p> <p>【発問】自分の考えを発表し合い、良さや相違点を捉えられるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決的な学習を積極的に取り入れ、考えの多様性や発展することの良さを感じるようにする。 児童の身近な事象から導入し、具体物や半具体物を操作する活動を重視する。 	<ul style="list-style-type: none"> 立式の手がかりとなる言葉を見つけさせその言葉をカードにしたり、具体物や半具体物を活用したりする。 考えを文に書かせたり、発表させたりして、友達の考えと比べさせ考えを深めたり広げたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 短時間で多くの問題を解かせたり、計算のやり方を説明させたりする。 問題作りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 半具体物や数直線を使った指導を行う。 思考の助けになるように既習事項を掲示し、理解を確実にする。
まとめ	<p>【板書・ノート】発表したことを一般化する。重要事項は四角で囲む。</p> <p>【発問】新しく習得した知識を他のものにあてはめたり練習したりして一般化や習熟を図る。</p> <p>【発問】分かったことや考えたことなどの学習のふりかえりをする。</p> <p>【観察】学習達成度、成就感、次時への意欲の状況を把握する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決的な学習を積極的に取り入れ、解決する楽しさを実感する。 児童の身近な事象から導入し、具体物や半具体物を操作する活動を重視する。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えの多様性のよさを感じ取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジカードに取り組み、計算の習熟を図る。 かさ当てクイズなど量感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間や単元の終わりに、くり返し復習したりしながら習熟を図る。

各教科名における一単位時間の授業の配慮点

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・発問・個別指導・ノート指導等)		各観点を向上させるための手だて			
		関心・意欲・態度	科学的な思考	技能・表現	知識・理解
導 入	<p>【規律】チャイム着席をし、学習用具の確認をする。</p> <p>【発問】本時の活動のめあてにつながる発問を構成する。</p> <p>【板書・ノート】活動名・めあてを板書する。ワークシートや探検ボード、実験用具などを用意する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の身近な事象から導入し、主体的に学べるようにする。 ・I T C機器を活用して写真やビデオを提示し、イメージできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えの手助けとなるよう、既習事項を提示する。 ・既習事項や身の回りのことから考えさせ予想する活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のための実験・観察の方法を考え、工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した内容を確認する。
展 開	<p>【発問】既習事項を基に観察や実験の予想をたてさせる。</p> <p>【板書・ノート】予想したことをワークシートに記入し、その根拠も明記させる。</p> <p>【個別指導】全体と個々を見ながら、取りかかりの遅れている児童に分かりやすく支援する。</p> <p>【グループ指導】役割分担を明らかにし、各自が協力して安全に準備、実験できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の身近な事象と比較しながら問題を見出し、主体的に学ぶようにする。 ・安全に実験・観察する。 ・自ら進んで実験・観察できるよう個々に支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをグループや全体で発表し、友達の考えと比べさせ、考えを深めたり広げたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートや観察カードに気付きを書く。 ・器具や機器などの扱いについて目的に応じて安全に使えるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事象の規則性や法則性を見付けられるよう資料を用意する。
ま と め	<p>【板書・ノート】本時のめあてに対する自分の考えをまとめる。実験結果や観察結果を発表、板書しまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力し、片づけをするよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想や根拠を比べながらまとめるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的事象に対する自分の見方や考え方をまとめるよう、ワークシート・板書を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で同じ事象があるかを考えるようにする。

各教科における一単位時間の授業の配慮点

指導技術		観点別の授業改善の視点		
教師の指導 (授業規律・発問・個別指導・ノート指導等)		各観点を向上させるための手だて		
		関心・意欲・態度	思考・判断	気付き
導入	<p>【規律】チャイム着席をし、学習に準備を確認する。</p> <p>【発問】前時の確認、本時のねらいについて興味・関心をもつような発問を行う。</p> <p>【板書・ノート】本時の単元名とねらいを板書し、課題をつかませる。ワークシートや探検ボードを用意する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動に興味・関心をもてるように発問を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいと活動内容を明示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動内容を明確にする。
展開	<p>【規律】話を聞く、活動をする、考える、発言や発表をするなど、活動の意図を明確に提示する。</p> <p>【発問】活動内容を明確にし、具体的かつ簡潔に説明する。</p> <p>用具使用の場合は、安全に十分注意するために細かく丁寧に説明をする。</p> <p>【板書・ノート】絵や写真などの資料や、授業の流れをつなげて提示する。活動に沿って、分かったこと、気づいたこと、感想、さらに調べたいことなど、自分の考えを書きやすいワークシートを工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもち、意欲的に活動するため、ワークシートを活用する。 体験活動を多く取り入れ、意欲的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに個々の考えを書く。 体験活動を通して、発表しあうことで、友達の考えを知り、自分との共通点や違いを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えだけではなく、友達の考えからも気付くようにする。 資料なども活用して気付くようにする。
まとめ	<p>【規律】協力してしっかりと話し合いを行う。</p> <p>【発問】活動をまとめる。疑問や不明な点がないか確認する。</p> <p>【板書・ノート】授業を振り返る。本時の展開や流れが分かるように提示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのよさを認め次への意欲につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動を振り返り、まとめさせる。 ワークシートに自己評価相互評価を行い次時につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動を振り返り、まとめる。

各教科名における一単位時間の授業の配慮点

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・発問・個別指導・ノート指導等)		各観点を向上させるための手だて			
		関心・意欲・態度	感受や表現の工夫	表現の技能	鑑賞の能力
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始のあいさつをみんなでそろってする。 ・既習曲を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習曲の中から数曲歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・のびのびと表現できるよう声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや意図をもって表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の気分を感じ取る。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱は心をこめて歌えるよう、アドバイスする。 ・器楽の練習をする前には、階名唱や運指唱(鍵盤ハーモニカの場合)をする。 ・学び合う活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏中の姿勢や口の開け方に気を付けさせる。 ・コミュニケーションがとりやすい二人組を中心に活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形作っている要素に気付かせる。 ・ひとつひとつの言葉の意味を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成長過程にある児童の声に無理のかからない歌い方で歌う。 ・声帯に無理をかけないために呼吸、及び発音の仕方を工夫する。 ・身近な楽器に親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形作っている要素のかかわり合いを感じ取る。 ・友達同士聴き合い、よさに気付かせる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返る。 ・次の予定を知る。 ・「礼」をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と向き合い静かにその時間を振り返り、つぎの時間の内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形作っている要素を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音を合わせて演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じ取ったことを言葉で表す。 ・相互のよさを生かす。

各教科名における一単位時間の授業の配慮点

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・発問・個別指導・ノート指導等)		各観点を向上させるための手だて			
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム着席をする。 ・前時の振り返り・ねらい・学習内容・安全指導等要点を説明・板書・音読等で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始手順・きまり等を提示する。 ・参考作品・作者や素材のエピソード等の関心・意欲を高める教材を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発想を広める参考作品を適度に提示する。 ・取り組みやすい教材を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順や道具・素材の機能・性質等を理解できるように、解説・実演する。 ・工夫を思いつくような応用例を適度に紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもち、感動するような参考作品を提示し、感想やつぶやきを取り上げ板書する。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・机上进行を常に整頓させ、作品・素材・道具等自力で管理できるようにする。作業前・作業中に安全指導をする。 ・必要な児童に適宜個別指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援は最小限にし、自力でやる意欲・達成感を持つ。 ・出来たところをほめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えて問題解決・発想等できるような支援をする。 ・児童の作品から良い例を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えて問題解決・発想等出来るような支援をする。 ・児童の作品から良い例を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互の作品を紹介・感想発表する機会を設ける。 ・発言を板書等する。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・片付け指導・安全指導をしてから片付ける。 ・次の人が気持ちよく使えるように片付けるように心がける。 ・ねらい・進捗等の振り返り、感想等を出来るだけ発表する。 ・次回予告を説明・板書等でし、意欲を持ち準備をするようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・片付け方を具体的に示す。 ・挙手させるなどして確実に確認する。 ・良い発言を褒める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良くできたこと・感心したことなどを確認・発表等を通して発想力や構想力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良くできたこと・感心したことなどを確認・発表等を通して自分の作品制作に生かすようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良くできたこと・感心したことなどを確認・発表等する。

各教科名における一単位時間の授業の配慮点

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・発問・個別指導・ノート指導等) (板書・学習形態・指導体制・場の設定・掲示・教材・評価方法)		各観点を向上させるための手だて			
		関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	知識・理解
導入	<p>【規律】チャイム着席をし、学習の準備と、出席や児童の体調を確認する。</p> <p>【場の設定】本時の活動に適した机の配置、作業場所の配置をしておく。</p> <p>【板書】本時の課題と計画を板書し、学習の見通しを持って進められるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の児童の様子や前時の児童のよかった点を取り上げる。 ・授業にスムーズにはいれるように、授業の準備を整えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習と日々の生活との結び付きを示唆するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全時までの技能の習得状況をとらえておき、補いの必要な場合は指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に習得したポイントを確認する過程を組み入れる。
展開	<p>【学習形態】学習の内容によって、個人、2人組、4人組、グループでの活動などを流動的に取り入れていく。</p> <p>【規律】活動の区切りとなる時間を明確にして、教師が進めるとともに、児童にも見通しをもてるようにする。</p> <p>【掲示】方法等の図・写真の掲示物を、効果的に掲示したり、いつでも参考に来るように選んで壁面掲示したりする。</p> <p>【指導体制】特に危険が予想される場合や、複数の指導者がいることが授業の効果に欠かせない時間には、担任や保護者の学習ボランティアの協力を得られるよう手配する。</p> <p>【個別指導】技能の例示をする時には、分かりやすく見られるよう、方法、人数、時間等考慮する。また、児童同士の教え合いを促すようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体での話し合いだけでなく、グループでの話し合いを取り入れる。 ・参考になる児童の作品や授業内容にかかわる物を掲示しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習と日々の生活との結び付きを示唆するようにする。 ・友達の考えや作品のよさに目を向かせ、取り入れていこうという意識をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本となる技能の習熟を図れるよう、教材を精選し、方法が理解しやすい例示を工夫し、実際にやってみたり練習したりする時間を確保する。 ・児童同士の教え合いがしやすくなるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が学習ノートに記入することで、ポイントなることの整理をはかり、正確に把握するようにする。

ま と め	<p>【ノート指導】共通に抑えたい知識が正確に記入されているかの確認をはかるようにする。また、自分が始めに書いたことに本時で学びとったことを書き加えられるよう指導していく。</p> <p>【発問】児童が自分の本時の学習について振り返るような発問をする。</p>	<p>・次時の活動への期待感が持てるような予告をする。</p>		<p>・未習熟の子、まだ終わらない子について、補いの指導時間をいつもつのかをはっきり示す。</p>	<p>・学習ノートの点検を行い、誤った理解の早期の修正に努める。</p>
-------------	--	---------------------------------	--	---	--------------------------------------

各教科名における一単位時間の授業の配慮点

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・発問・個別指導・ノート指導等)		各観点を向上させるための手だて			
		関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
導入	<ul style="list-style-type: none"> 集合、整列をしっかりと行い、服装や靴の確認、用具や場の安全確認を必ず行う。 単元全体のねらいや見通し、本時のねらいや見通し等を(児童が何を学習し、何に気を付け、どのように行い、何を身に付けるのか等)を明らかにする。 体ほぐしの運動等を効果的に取り入れ心と体を十分にほぐしてから運動を行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心・意欲・態度の高い児童を称賛し価値付ける。 授業のめあてや一時間の流れが分かるように、掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のめあてがはっきり意識できるようにし、よい例をいくつか出し、視覚的に掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 主運動につながる感覚づくりの運動や体ほぐしの運動を必ず行う。 遊び感覚でゲーム等を行う中で基礎技能や体力が高まるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が何を学習し、何を身に付けるのか等が分かりやすい資料を提示する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> 実態に応じて、ルールを工夫し、児童が楽しめるようにする。 説明や指示の時間を減らし、効率よく運動を行い、児童が運動できる時間をできるだけ多く確保する。よい動きや、態度、声かけなどを賞賛し価値付けて広める。 ペアやトリオで互いに技能の習熟度を確認したり、課題別のグルーピング等の工夫をしたりして、効率よく指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> よい声かけや、チームで協力している姿を、その場で賞賛する。できない児童やトラブルにも、その場で支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人のめあてや課題を把握し、適切に支援する。 個人やチームのめあてや作戦の達成に向け適切に取り組んでいるか判断し支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の仕方やめあての達成の仕方が分かりやすい資料や掲示物を用意する。 少人数や課題別等のグループを活用し、効率よく見合い教え合いができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> なぜ、どのように、どうやって等がよく分かる資料や掲示物を用意する。 高学年では学習カード等を用意し身に付いたことを記録する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 互いのよい動き、態度、声かけ等の成果を相互発表し、本時の伸びや課題等について自己評価、相互評価する。 学習カードに、自分のめあてを振り返り、自己評価や相互評価を行う。また、次回へのめあてをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全面や友達とのかかわりなどでよい態度や、声かけのあった児童を紹介し、価値付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のめあてを意識して学習に取り組んだり、振り返ったりできたことを賞賛し、さらに具体的なめあてが次回にもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> よいプレーや技能、工夫の姿を紹介し、示範させ価値付け広めていく。 できない児童には学習カードに、個別に支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活をふり返し、今後の自分の生活に活かしたり見直したりできるよう考える。